

J Sights Corporation

ホワイトグレープフルーツ果汁の世界的供給状況と日本の調達動向

2025年10月24日

Jサイト株式会社 島尾 裕子

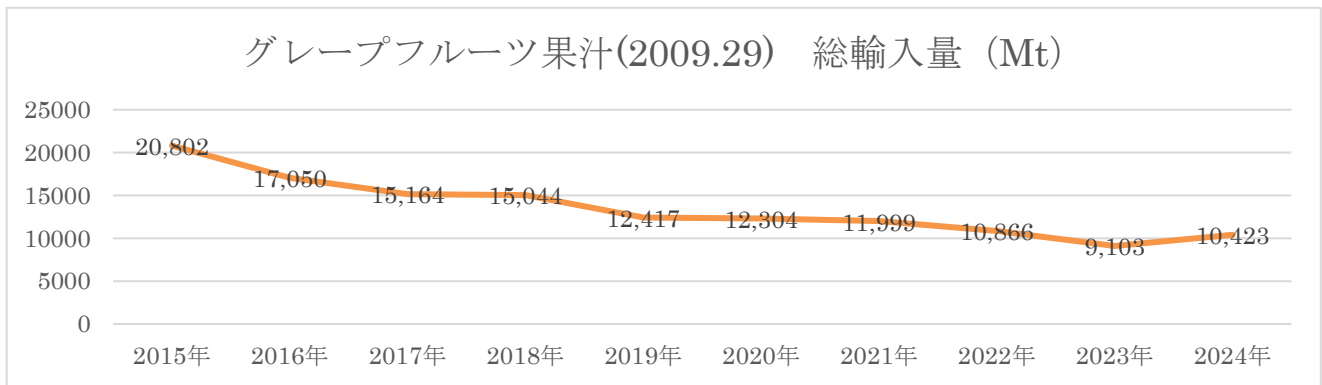
前回の果汁レポートではシトラス系果汁全体を概観したが、今回は当社が主に取り扱うグレープフルーツ果汁に焦点を当て、これまでの実績および日々の業務から得た知見をもとに、今後の市場動向を考察する。

近年、デザート・菓子や飲料分野ではピンクグレープフルーツの使用頻度が増加している。RTD(Ready To Drink)飲料などでは、王道のレモンと色でパッケージに違いを表現しやすいことに加え、「フルーティーで苦味の少ない味わい」が消費者に好まれているためである。

一方、ホワイトグレープフルーツはその苦味と酸味によるキレのある後味が特徴であり、日本人の嗜好に合致することから、単体原料としてだけでなく、味の奥行きを出すためのブレンド用途でも根強い支持を得ている。当社の主力果汁もこのホワイトタイプである。

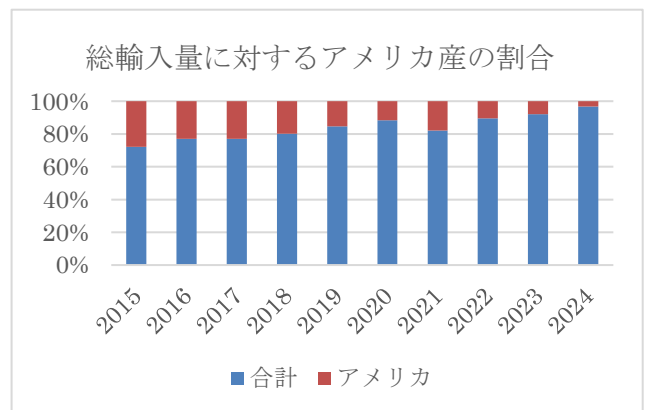
日本のグレープフルーツ果汁輸入実績

2015年から2024年までの10年間について、品目コード 2009.29(グレープフルーツ及びポメロジュース/ブリックス20超)の輸入統計を分析した。その結果を下図に示す。



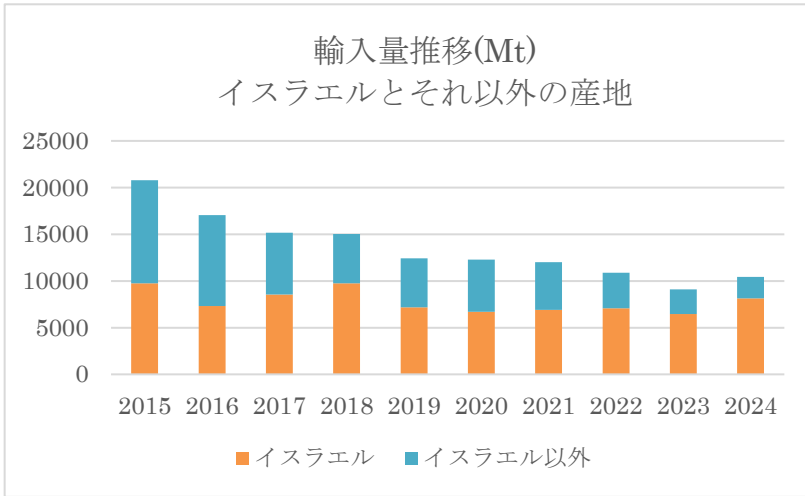
過去10年間で輸入量はおよそ半減しており、供給の不安定化が顕著である。特に南アフリカ、メキシコ、米国といった主要供給国の生産減少に加え、国内需要の縮小や代替果汁の普及が影響していると考えられる。

米国では、果樹園の高齢化、記録的な気候変動、病害の蔓延などが重なり、収穫量の激減と農園の廃業が相次いでいる。これが全体の減少要因のひとつとなっている。



J Sights Corporation

イスラエル産の安定供給と地政学リスク



イスラエル産とそれ以外の産地を比較すると、全体の減少傾向のなかでイスラエル産は数量がほぼ横ばいで推移していることがわかる。

同国は長年にわたり、品質・規格・安定供給の面で他国を凌駕している。当社でもイスラエル産を主力として取り扱っており、現地工場の設備・規模ともに世界最高水準にあることから、当面は優位性が揺らぐことはないと考えられる。

ただし、同国は常に(数千年の歴史を通して)地政学的リスクと隣り合わせである。当社のサプライヤーは其中でも安定供給を維持しているが、リスク分散の観点から、当社としても他産地の選択肢を確保する必要がある。

トルコの供給状況

トルコは地中海沿岸の温暖な気候を生かし、近年グレープフルーツの新興産地として注目されている。従来は国内消費および周辺国向け輸出が中心であったが、近年は輸出インフラや品質管理体制の整備が進み、輸出货量も増加傾向にある。

特にアダナ、メルシン、ハタイなど南部地中海地域では、大規模果樹園の拡張が進み、2020～2023年にかけて生産量は増加した。2023年のグレープフルーツ生産量は約28万トン、2024年は約15万トンと推定されている(※1, ※2)。2024年の減少は開花期の高温により着果が抑制されたためである。

今後も気候変動による年次変動は避けられないが、果樹園の拡大基調を踏まえると、中長期的には生産量の増加が見込まれる。当社は既存の取引実績を基盤に、現地パートナーとの関係を強化し、安定供給と品質向上を両立する多角的な調達体制の構築を進めていく。

まとめ

ホワイトグレープフルーツ果汁の世界的な供給量は減少傾向にあるが、日本市場では依然として安定した需要が存在する。当社はイスラエル産を主軸に据えつつ、トルコ産を含めた複数産地との協業を進めることで、安定供給と品質維持を両立させる体制を整備していく。

こうした取り組みを通じて、将来的な供給リスクを低減し、より持続可能な原料調達を目指す。

※1:TÜİK(トルコ統計局)“Production of Fruits, Beverages and Spices Crops”

※2:USDA“Citrus Annual 2025”

当社ではトルコ産ホワイトGF果汁・イスラエル産ホワイト/ピンクGF果汁を取り扱っております。

ご興味のある方はお気軽に[お問い合わせ](#)ください。

無断転載禁止